

# 進捗状況報告シート

(2010年度・大学)

担当部局は☆印の箇所を記入のこと。

## I. 評価項目・要素と担当部局

対象部局	文学部
大項目	0 理念・目的
中項目	
小項目	0.0.1 大学・学部・研究科等の理念・目的は、適切に設定されているか。
要素	理念・目的の明確化 実績や資源からみた理念・目的の適切性 個性化への対応
小項目	0.0.2 大学・学部・研究科等の理念・目的が、大学構成員（教職員および学生）に周知され、社会に公表されているか。
要素	構成員に対する周知方法と有効性 社会への公表方法
小項目	0.0.3 大学・学部・研究科等の理念・目的の適切性について定期的に検証を行っているか。
要素	

## II. 自己点検・評価《進捗状況報告》

### 【現状の説明】

#### 《目標・指標》

本項目において、2009年度～2013年度の中期的な「目標」と「指標」を次のとおり設定した。

目標の進捗状況は「A:適切に実行している」「B:概ね実行している」「C:必ずしも実行していない」「D:実行していない」とし、自ら評価した。

2009年度に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗評価
1. 文学部の理念と目的を共有化し、適切性を点検・検討するため全教員による会を定期的に開催する。	→会の開催実績と記録	B
2. アドミッション・ポリシー、ディプロマ・ポリシーを含め、文学部の理念と目的について、教員・学生への周知徹底を図る。	→学生による授業評価アンケート等における認知度調査	B

2010年度以降に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗評価
	→	☆
	→	☆

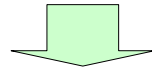
### 《小項目ごとの現状説明》 ※ 全小項目について記述が必要

☆ 小項目0.0.1	(理念・目的) 人間存在とその営為を、様々な方向からの検討を通じて明らかにする専門的能力を涵養するとともに、豊かな人間性を育み現代社会を理解するための幅広い視点と教養の獲得を重視して教育研究を進める。それにより、包括的で幅広い教養と高度で専門的な知識をあわせ持ち、洞察力を身につけた人間を育成する。 (現状説明) 上記の明文化された文学部全体の理念、目的、並びに各学科毎のそれについては、2003年度の学科再編の議論の中で従来本文学部が掲げてきた理念、目的と伝統を確認、踏襲したものであり、教授会においても合意を得ている。
☆ 小項目0.0.2	(現状説明) 大学学則に明記されている。これを根拠とするアドミッション・ポリシーや入試広報を通じて広く社会に公表されていると言える。教員には2003年度の学科再編に至る経緯、学則化の過程の中である程度浸透しているが、その後毎年確認をしているわけではなく、特に新しく就任した教員への周知は徹底していない。また、学生への周知は十分ではない。
☆ 小項目0.0.3	(現状説明) 適切性については、学則に明記してのち入試要項の作成等を通じて、執行部教員によって検討はされているが、教職員全体の議論とはなっていない。定期的な検証、検討は行っていない。
☆ その他	

## ◎効果が上がっている事項

## 【点検・評価 (1)】効果が上がっている事項

小項目0.0.1	
小項目0.0.2	
★ 小項目0.0.3	
その他	



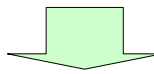
## 【次年度に向けた方策(1)】伸長させるための方策

小項目0.0.1	
小項目0.0.2	
★ 小項目0.0.3	
その他	

## ◎改善すべき事項

## 【点検・評価 (2)】改善すべき事項

小項目0.0.1	特になし
小項目0.0.2	特に学生への周知徹底
★ 小項目0.0.3	定期的な検証、検討
その他	



## 【次年度に向けた方策(2)】改善方策

小項目0.0.1	
★ 小項目0.0.2	教職員については、理念・目的の検証を通じて周知を図るとともに、毎年作成し配布される『文学部ガイド』（文学部・文学研究科ガイド）と改題予定）に記載し、説明することによって、新任教職員への周知を図る。学生への周知徹底の方法について検討し、実施の目処をつける。
小項目0.0.3	現在の組織を維持する限り検証・検討は喫緊の課題ではないが、目標に掲げたように、全教員による検証のための定期的な会議をどのように開催すべきか検討し、実施する。
その他	

## ◎自由記述

## 【点検・評価】&amp;【次年度に向けた方策】

★ その他 (自由記述)	
-----------------	--

## Ⅲ. 学内第三者評価

<評価推進委員会からの評価> (実務作業は評価専門委員会、評価情報分析室、企画室)

## 【学外委員】

○学部の理念・目的の教職員及び学生への浸透と将来に向けた検証が望まれます。

## 【学内委員】

○理念と目的を明示し、それを共有化することは重要です。また、理念や目的に基づくアドミッション・ポリシーおよびディプロマ・ポリシーを策定することは重要です。これらに関して一定の成果が上がっていることは評価できます。さらなる努力が期待されます。

○文学部は扱う範囲が広いので、学科別での理念・目的の確認は評価できます。小項目0.0.2、0.0.3は今後とも継続的審議が望まれます。

## Ⅳ. 学内第三者評価の評価結果を受けての追加記述

★ なし

## V. 本項目の評価指標

### <全学的な指標>

0.0.0.S1	本学の育成した人材(卒業生)に対する社会(企業)の評価
0.0.0.S2	卒業生がどの程度スクールモットー(マスタリー・フォア・サービス)をどの意識しているか
0.0.0.S3	卒業生のうち、自分の子供等、身内に関学への進学を勧めたいと思う人の比率
0.0.0.S4	卒業生のうち、自分の子供等、身内に関学への進学を勧めたいと思う人で、「スクールモットーに共感できる」ことをその理由とする人の比率
0.0.0.S5	在学生のうち「この大学で人生の一時期を過ごすことが、将来にとって役立つと思う」人の比率
0.0.0.S6	本学出身でキリスト教関連活動に従事する者(牧師を含む)の数
0.0.0.S7	理念の周知について(1)－理念・教育目標を宣布する発行物・行事などの種類・数
0.0.0.S8	理念の周知について(2)－総合コース「『関学』学」の履修者数

### <個別的な指標>
